

「応募申請書の記載項目について」
(2016 一般研究開発助成金Ⅱ)

一般研究開発助成金Ⅱ 応募申請書の記載項目ならびに記載要領は以下のとおりです。

項目	内容/要領
申請者（主たる研究開発者）	氏名、性別、年齢、学位、所属機関・部署、役職、所在地、電話番号、携帯番号（可能な場合）、FAX 番号、メールアドレス、所属学会名
研究開発テーマ名	（30 文字まで）
関連研究開発に対する他所からの助成金、補助金の有無	他所からの助成金、補助金の有無を選択ください。
推薦者	氏名、所属機関・部署、役職、所在地、電話番号、メールアドレス ※推薦者は所属教室・講座の長ではありません。募集要項を参照下さい。 ※推薦者は申請者の上長です。したがって申請者と推薦者は原則として同一所属となりますので、そのことが判るように記載ください。 ※当法人理事、評議員、学術委員の推薦の場合は、所属機関を「テルモ生命科学芸術財団」、役職を「理事」等としてください。また、部署、所在地、電話、メールアドレスは記載不要です。
共同研究開発者	氏名、年齢、所属機関・部署、役職
V 申請者の略歴	最終学歴以降を記載下さい。
VI 関連研究開発に対する他所からの助成金、補助金の内容	現在までに、本研究開発テーマに関連して国または地方公共団体もしくはその他の団体から助成金等を受けている場合に、交付団体名、助成金名、研究課題、期間、金額を、最新のものから3件まで記載下さい。 ※未定のは記載不要です。 ※申請書中の四角枠内の説明書きは削除して構いません。
VII 申請内容の要約	400字程度。またキーワードを5つ以内で記載下さい。
VIII 研究開発の目的	研究開発の目的を記載下さい。（図表可）
IX 医療現場における新しい価値	この研究開発の目的が達成された場合に、医療現場においてどのようなことが新しくできるようになるかを具体的に記載下さい。新しい価値については以下の例示を参考にして下さい。 「今までできなかった治療や検査ができる」、「治療成績が向上する」、「副作用が軽減する」、「より早期に治癒する」、「より早期に退院できる」、「患者の痛みや身体的な負担が軽減される」、「検査精度が向上する」、「検査時間が短縮する」、「治療時間が短くなる」、「医療の安全性が向上する」、「病院と在宅をより簡便につなげることができる」など、既存テクノロジーや手技と比較し、ある程度明確かつ具体的な価値のことを言います。テクノロジー自身は手段となり、最終目的は医療現場でのメリットをもたらすこと、新しい価値を生み、提供することです。（図

	表可) ※申請書中の四角枠内の説明書きは削除して構いません。
X 研究開発実施計画の概要	実験・試験プロセスを記載下さい。共同研究開発者がいる場合には役割分担を記載下さい。(図表可)
X I 助成金の使途内訳	実験機器、実験用具、試薬代等々に分けて大凡の金額を記載下さい。(図表可) ※研究開発に直接要する物品の購入費用、その他研究の実施に必要な費用と致します。研究実施者の人件費は含みません。ただしアルバイト等は可とします。
X II この研究開発テーマに関連する申請者の現在までの実績の概要	共同研究者の実績を含めて記載する場合には、その旨がわかるように記載下さい。(図表可)
X III この研究開発テーマに関する日本・外国での研究開発の動向と優位性の概要	現在の診断・治療方法や競合する医療技術との比較を記載下さい。それらとの優位性及びその評価尺度について記載下さい。(図表可) ※申請書中の四角枠内の説明書きは削除して構いません。
X V この研究開発テーマに関連する申請者自身の代表的な論文	代表的な論文を記載下さい。人名、論文名、雑誌名、巻、ページ、年号(西暦)で記載。 ※論文の添付は不要です。 ※申請書中の四角枠内の説明書きは削除して構いません。